

放課後自習教室

主催：地域協働学校

本校がこれまでなぜ放課後自習教室に力を入れてきたのか？その理由をお話しします。

放課後自習教室

主催：地域協働学校

新型コロナ感染拡大で、昨年は4月～5月の末まで学校が休業になりました。学校は、6月に入学式を行い、その後も半数の人数で午前・午後と授業を少しずつ行いました。そのような中、教育実習も延期になったのですが、その教育実習の担当教官である、大学の教授が校長室に2人みえ、その中で大学生の現状をお話になりました。

大学は、長期にわたり休業が続いたのですが、自宅でリモートの授業を受けるスタイルが多くなりました。教授陣も最初こそ手間取りましたが、カリキュラムもこなさなければなりません。そこでICT機器でZOOM等を駆使して授業が行われました。それができない学生が多くいるということを知りました。

ICT 機器については、小さい頃から触っている学生ですからそれについての問題はないのですが、その学生たちに、「ある能力」がとても劣っていることが分かったのです。この能力が劣っているために、自分一人でパソコンのモニターに向かい学習することが非常に苦痛になりました。集中がすぐに切れてしまうのです。その原因は何でしょう？

誰かに「いつも見守られる教育」、これこそがこの原因だろうと教授たちは言いました。

小学校、中学校、そして高等学校や予備校、塾等ありとあらゆる機関が、子供の学習を支えようとするのは、わかります。そこで習ったから、だれしも子供は育つと考えます。しかし、実際はそうではなく、習ったことを自分で使わねば何の理解にもならないのです。さらに教育機関がその使う時間をほとんど持てなかったということに本校は、気が付いたのです。

そこで生まれたのが、放課後自習教室でした。自習教室では、放課後の時間、自習教室に集まりシーンとみんなが自習

学習するって何だろう。

人は一生涯をかけた様々なことを学習します。何か人生の障壁にぶつかったときに人は、その障壁を超えようとします。この障壁を超えることが成長につながります。現在、障壁にぶつかったときに逃げてしまう人が多くなってきました。しかし、逃げるのも生きる手法の一つであることは確かです。さらに逃げたら逃げたで違う障壁がまた、見えてきますから、いつかは、その課題を解決しなければなりません。中学生の時期の学習は、その障壁を超えるための一生の学習の基盤になります。

をしています。テスト勉強をしている生徒、今日の授業の復習をしている生徒、明日の予習をしている生徒。友達同士で来ても、教室に入ったら、やることは個々で違いますから、互いに話はしません。図書館のような状態です。

実施してびっくりしたこと。まず生徒に集中力があるということです。3時間くらい平気で自習します。「静かに自習するように」と言わねばならないだろうと、当初構えていたのですが6割の生徒が、静かに自習できる能力を有していました。しかし、後の4割は、集中が途中で切れてしまいます。しかし、圧倒的に静かに学習している生徒が多いので、騒ぐ生徒はいません。ただ、入学したての生徒が3年生にうるさいと怒られていたことはありました。静かに自習できる習慣が次の社会を開きます。ぜひ参加させてください。

先生のいない自習教室。基本的に先生は、自習教室には、来ません。校長・副校長が見回る程度です。ここで先生たちが入って、わからないことを教えてあげようとしたら、本末転倒です。それならば質問教室とか補充教室とか名前を変えなければなりません。

ボランティアに支えられた教室。この放課後自習教室は、PTAの保護者ボランティアによって支えられています。決して何か学習を指導することはありません。なぜなら自習だからです。生徒が自習やっている部屋で、出席、退出確認をして表に付ける作業をしています。それがお仕事です。

1 学期、参加者が一日当たり70名に達した日もありました。こうなってくると、教室を2つ3つと増やします。基本的には、2階の多目的室です。現在、自習教室を開催していますが、期末考査1週間前になると生徒がどっと押し寄せます。そこで、今一度、保護者のボランティアをお願いします。保護者の皆さんも本などを読みながら生徒と一緒に自習してはいかがでしょうか？本校の学校図書館は、新宿区でもナンバー1の蔵書数を誇ります。ぜひ、読書の秋を！